

第2学年体育科学習指導案

日 時 令和8年2月6日(金)
 第5校時 13:30～14:15 学
 校名 日野市立平山小学校
 対 象 2 年 3 組 33名
 わかくさ学級2年 2名
 会 場 体育館
 授業者 T1 直井典之(主幹教諭)
 T2 鈴木一葉(教諭)

- 1 単元名 「コロコロ×ワクワク大作せん～あそび名人になろう～」
 B 器械・器具を使つての運動遊び イ マットを使つた運動遊び

2 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
マットを使つた運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向へ転がり、手で支えての体の保持や回転をして遊ぶことができるようにする。	マットを用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。	マット使つた運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたることができるようにする。

3 単元(題材)の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①マットを使つた運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。	①マットを使つた運動遊びの簡単な遊び方を選んでいる。 ②友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	①マットを使つた運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とでも仲良くしようとしている。 ③順番や器具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

4 単元について

(1) 単元観

本単元は小学校学習指導要領（平成29年3月告示）体育 第1学年及び第2学年

B 器械・器具を使つての運動遊び

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができるようにする。
- イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向へ転がり、手で支えての体の保持や回転をすることができる。
- (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりをまもり誰とでも仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。

を受けて設定した。また、小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月）の内容を踏まえ、本単元における児童に味わわせたい運動の特性を以下のようにまとめた。

○一般的特性

- ・マットの上で、いろいろな回り方や動き方を工夫して楽しむ運動である。
- ・得意な動き方で上手に回ったり、新しい回り方や動き方に挑戦したりして楽しむ運動である。
- ・友達と協力して準備や活動をすることや、決まりを守って遊ぶことのよさを体験できる運動である。

○児童から見た特性

- ・いろいろな回転に挑戦したり、いくつかの技を組み合わせで調子よくできたりする時に楽しさを感じる運動である。
- ・友達と調子を合わせて回ったり動いたりすることが楽しい運動である。
- ・苦手な児童にとっては、技を失敗して怖さや痛みを感じることもある運動である。

(2) 児童観

ア 教師から見た実態

学級内の多くの児童が、誰とでも仲良く遊ぶことができる。休み時間には多くの児童が校庭へ遊びに出ていく。ボールを使って遊んだり、鬼ごっこをしたり、一輪車を使ったりして遊んでいる。兄弟がいる他学年の児童も一緒に遊んでいる姿を見る。

一方、集団活動を苦手とする男子児童が若干名いる。そういった児童に、温かく見守ったり、自分から声を掛けたりする児童も多く、互いに理解しながら、活動に取り組むことができる。

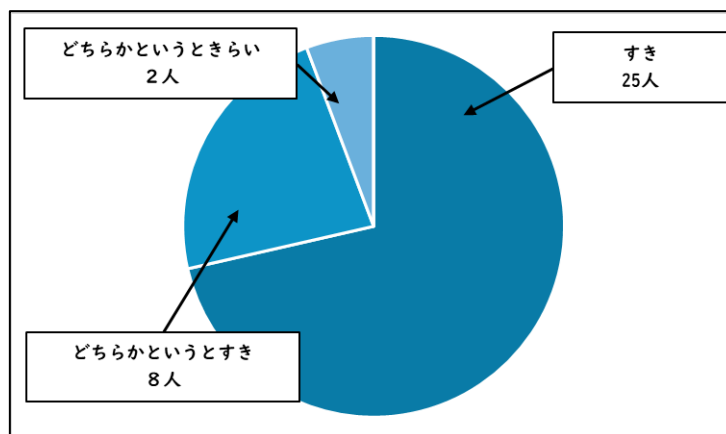
また、2学期の運動会よりわかくさ学級（知的固定）の同学年の児童2名と活動を一緒にするようになっている。2学期の体育も一緒に活動するようになり、互いに名前を覚え、休み時間に声を掛け合う姿も見られるようになっている。

イ 実態調査

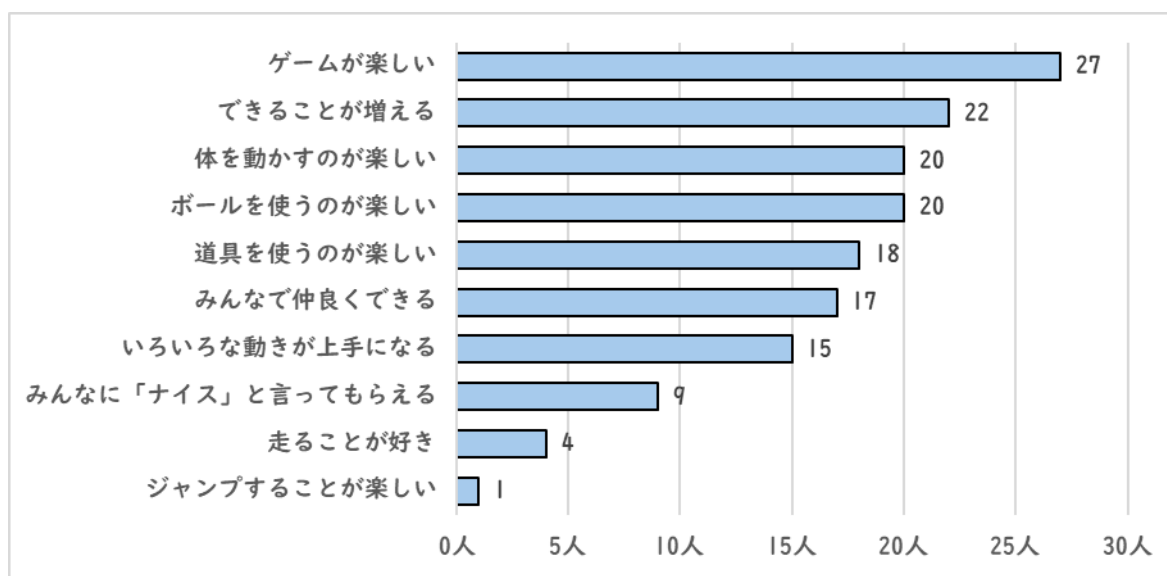
調査方法：選択式・記述式アンケート 調査時期：令和7年11月

調査対象：2年3組33名、わかくさ学級2年生2名 計35名

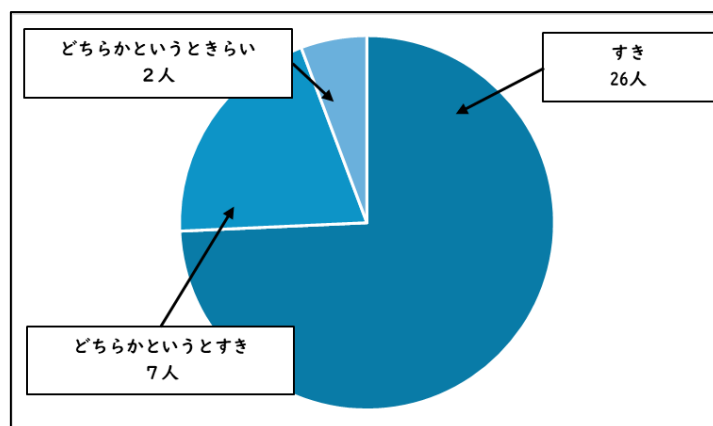
① 体育の授業は好きですか。



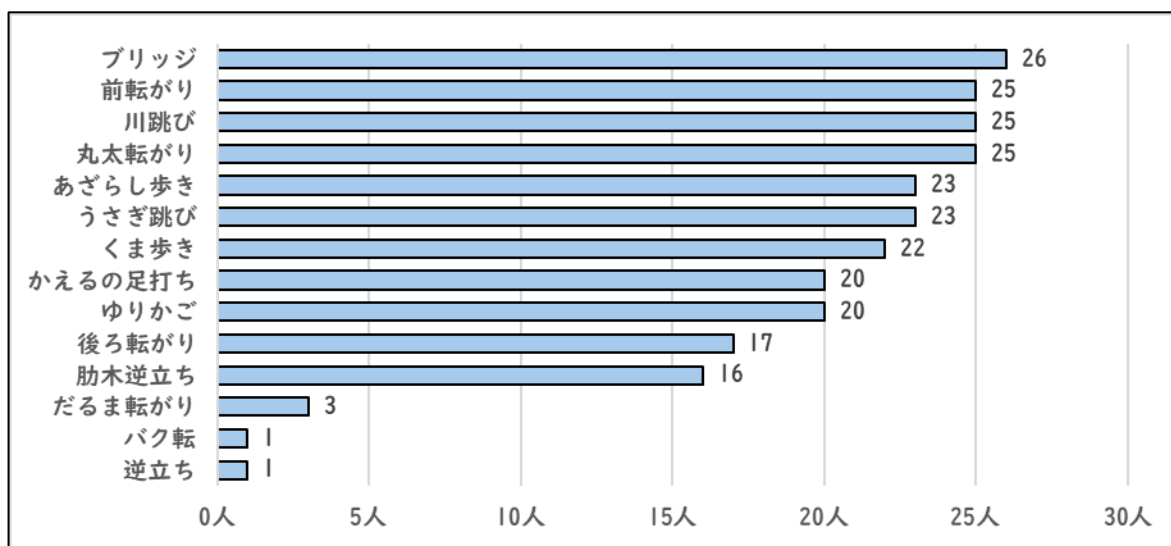
② 「好き」・「どちらかというとき」 と答えた人へ理由を教えてください。 (いくつでも えらべます)



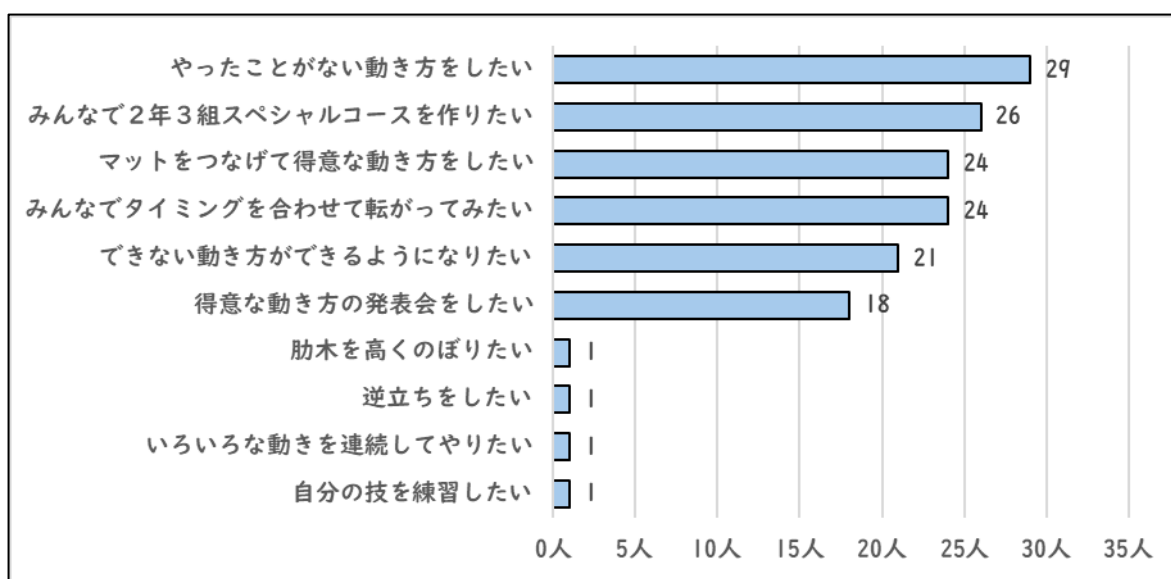
③ マットを使った運動遊びは好きですか。



④ マット運動ではどんなことができますか。



⑤ 2年生のマット運動でどんなことがやってみたいですか。



ウ 分析・考察

①から学級全体で運動、体育に前向きであることが分かる。②から、前向きな児童のほとんどが運動をすること自体に楽しみを見出していることが伺うことができる。また、体育の授業を通して、周りから褒めてもらえたり、友達と一緒に活動できることに価値を見出したりしている。

また、これまでに取り組んだゲームの授業（ボールゲーム）、走跳の運動遊びなどの経験からも楽しさを見出していることが分かる。学級担任として、児童のできるようになっていること、取り組む姿勢などをできるだけ声に出し称賛したり、児童同士のかかわりを多くもてたりできるように意識をしてきたことが、結果として表れているように感じる。

事前アンケートを教室で行う際に、「先生、ブリッジはこうやってやるんだよ！」、「僕、うさぎ跳びできるよ！」、「私は川跳びが好きだった！」と教室内で、自然と体を動かしながら嬉しそうに教えてくれる姿が見られた。1年生の時のマット運動遊びの学習をととても好意的に受け止めていることが分かった。

⑤から未知の学習への期待、できる遊びを更に楽しくすること、などに興味関心をもち楽しみにしていることが分かる。今回の学習では、児童のその思いに応えられるような教材づくりを目指し、また、友達と一緒に関わり合うことで広がる運動遊びの広がりも実感できるようにしていきたい。

（３）教材観

本単元では、運動遊びが内包する楽しさを十分に味わえることを大切にしていきたい。小学校学習指導要領解説体育編には「各種の運動遊びとは、児童の発達段階を踏まえ、ねらいとする動きを遊びの要素を取り入れて行うものであり、児童が成功体験を得やすいように課題やルール、場や用具等が緩和された遊びを指す」と記されている。運動遊びとははじめてから存在するものではなく、「運動遊び」＝「遊びの性格をもった運動」と捉えて、「子供が運動と出会い、それを遊びとして学ぶ」ことで「運動遊びの学習」に取り組めるようにしたい。

マット運動遊びは日常生活ではあまり経験することのない、転がる・逆さまになるといった非日常的な感覚を大切にしたい運動である。マットに背中や腹などをつけて、いろいろな方向へ転がって遊んだり、手や背中で支持して逆さ立ちなどの動き方を遊んだりしながら楽しめるように取り組んでいく。

運動課題と児童の実態のバランスを大切にする。運動課題が児童にとって困難であると児童は不安を感じ、課題が易しすぎると飽和状態になってしまうと考える。誰もが、マット運動遊びに夢中になって取り組むことができるようにしていきたい。

そして、児童が運動と出会い、運動遊びを行っていく際に場の設定が重要だと考える。児童が場から働き掛けられることによって、夢中になって運動遊びに取り組んでいくと考え以下の手だてを取る。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 運動課題と児童の実態のバランス取った単元指導計画づくり

児童の発想を生かしたり、児童の実態や学びの状況に適した課題を整えたりしていくことで、児童が夢中になって運動遊びに取り組めるように指導計画【広げる】(チャレンジタイム・ワクワクタイム)の時間設定を実態に応じて、増減させ変えていく。

② 運動遊びにおける場【易しい場】

児童が夢中になって運動遊びに取り組めるように環境を整え、遊びのきっかけをつくる。

【単元前半の場】チャレンジタイム

○今もっている力で楽しめる環境

○シンプルな場で楽しめる環境

【単元後半の場】ワクワクタイム

○場を工夫し、更に遊び方を広げられる環境

○児童の工夫を生かした複合的な環境

(2) 対話・協働

① 友達と一緒に取り組む場

ワクワクタイムの活動の場に「友だちマット」の場を作る。

2人や4人でタイミングを合わせたり、2人でじゃんけんをしたりして楽しむことができるようにする。

② 動画を使った「導入」の工夫

前時に見られた遊びの工夫を、動画で振り返り、前時の活動を想起しながら活動に取り組むことができるようにする。

6 単元(題材)の指導計画と評価計画(全8時間)

時間		1	2	3	4	5	6（本時）	7	8
問題解決の流れ		つかむ	広げる						まとめる
ねらい		学習の見通しをもつ。	マットを使った運動遊びの行い方を知り、いろいろな運動遊びをして、みんなで楽しく遊ぶ。			簡単な遊び方を工夫し、いろいろな運動遊びをして、みんなで楽しく遊ぶ。			学習のまとめをする。
主な 学習活動		1 集合、挨拶、健康観察 2 単元の学習の見通しをもつ ○単元の目標と学習の進め方を知る ○学習のきまりを知る。 3 本時のねらいを知り、めあてを立てる 4 場や器械・器具の準備 ○場や器械・器具の準備と片付けの仕方を知る。 5 準備運動、主運動につながる運動遊び ○準備運動、主運動につながる運動遊びの行い方を知る。 6 マットを使った運動遊び ○これまでに学習したマットを使ったいろいろな運動遊びの行い方を確認する。	1 集合、挨拶、健康観察 2 本時のねらいを知り、めあてを立てる 3 場や器械・器具の準備						
			4 準備運動、主運動につながる運動遊びをする						
			5 チャレンジタイム マットを使った運動遊び【今もっている力で取り組める環境】 ・感覚づくり運動を組み合わせる場 ・いろいろな転がり方をする場 ・川跳びの場 ・できる動きを友達と楽しむ場 ※四つに分かれてまわるようにする						
			6 ワクワクタイム 簡単な遊び方を工夫して、マットを使った運動遊び【場を工夫し、更に遊び方を広げられる環境】 ・遊び方を工夫して遊ぶ ・遊び方…赤玉やゴムをよけて転がる。友達と一緒に転がる。など						
		7 振り返り 8 整理運動、場や器械・器具の片付け 9 集合、健康観察、挨拶							
評価 （方法）	ア 知・技				① （行動観察・学習カード）				② （行動観察）
	イ 思・判・表					① （行動観察・学習カード）	② （行動観察・学習カード）		
	ウ 主	④ （行動観察・学習カード）	② （行動観察・学習カード）	③ （行動観察・学習カード）				① （行動観察・学習カード）	

7 本時(全8時間中の第6時)

(1) 本時の目標

友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。

(思考力, 判断力, 表現力等)

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項	評価規準
導入 12分	1 集合、整列、挨拶		
	2 本時の見通し	○児童の言葉でめあてを立てる。	
	もっと楽しい マットのあそび方を 考えよう		
	3 場や器械・器具の準備	○安全な準備の仕方を確認する。	
	4 準備運動、主運動につながる運動遊び	○けがの防止のために、適切な準備運動を行うように、実際に動いて示しながら伝える。	
展開 25分	5 【チャレンジタイム】 マットを使った運動遊び ローテーションでの学習 ○感覚づくり運動を組み合わせた場 ○いろいろな転がり方をする場 ○川跳びの場 ○できる動きを友達と楽しむ場 ※四つに分かれてまわるようにする	○マットを使った運動遊びの行い方について、場を示したり、実際に動いて示したりしながら説明する。	イ-②
	6 【ワクワクタイム】 簡単な遊び方を工夫して、マットを使った運動遊び ○友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを伝える。	○楽しくできる場や遊び方を選んでい ることを取り上げて、称賛する。 ○赤玉やゴムの位置、坂道の場所など 児童の発想を生かして、場を工夫で きるようにする。 ○遊び方が工夫できるように、児童が 興味をもつような用具を提示する。 ○見つけたり考えたりしたことを伝え られていることを取り上げて、称賛 する。	
まとめ 8分	7 振り返り ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ	○振り返りをペアの児童と話したり、 発表したりするように伝えるとき に、気づきや考えのよさを取り上げ て、称賛する。	イ-②
	8 整理運動、場や器械・器具の片付け	○適切な整理運動を行うように、実際に動いて示しながら伝えるとともに、けががないかなどを確認する。	

	9 集合、健康観察、挨拶		
--	--------------	--	--

(3) 授業観察の視点

- ・児童が夢中になって運動遊びに取り組めるように環境を整えることで、遊びの広げることができるか。(個別最適・課題解決②)

(4) 参考文献

- ・平成29年度研究開発委員会【小学校体育】自主報告書
- ・小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省 平成29年3月）